冬夜感

貴とうく賤とうく旅泊のうき
をやいとんとうしさはとこふ
まにきいさ磐といふる渭
やどん身はさむはかりなるん
以て小まものうじなる楢の
はしきあつるかとしくれ
ける日のつもりくまさにけれ
ぬるし　きまく咲かへ
もしらあれと眼はそむへきを
ちしまけ風のすさまく
夜の秋衣はぬせかしく窓
とは月しいよくうとし
ちとつとりもしこれ雲のを
こしせることくなりぬれ

小まれは美碑しを
夜さ行ふ邦

孤房
ら佛